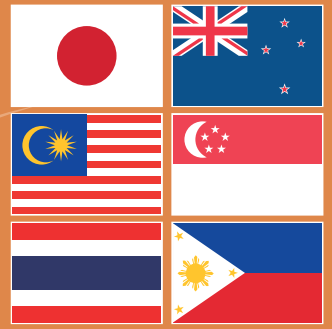




国際交流

本校では英語での高い表現能力を備えたグローバルな技術者の育成に力を注いでいます。



マレーシア・ペトロナス工科大学やタイ・カセサート大学、シンガポール・テマセクポリテクニク校との交流事業をはじめ、ネイティブ講師による校内英語集中セミナーの開催、また、立命館アジア太平洋大学の現役留学生を講師に招いた「イングリッシュ・ルーム」を毎週開講し、英語でのゲームやクイズなど気軽な交流を通して生きた英語に楽しく触れることができる様々な機会を設けています。また、様々な国からの留学生も受け入れています。

昨年度からは新たな取り組みとして、ニュージーランド・クライストチャーチ工科大学ティマルキャンパスでの2週間にわたる短期語学研修プログラムを開始。本校1年生から専攻科1年生まで合計16名の学生が参加し、語学研修に加え、現地小学校や文化施設の訪問、牧羊大国ならではの大自然との触れあいなどバラエティー豊かな体験のほか、ホームステイを通して未知の異国文化を実際に肌で感じ取る経験も得ました。

国内外での様々な国の人々とのリアルな国際交流を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ると共に、世界で通用する技術者になるための幅広い国際感覚を養うために、今後も積極的に人的国際交流を拡大させていく予定です。



■ 現在在学中の留学生 (平成31年4月現在)		
3年	2名	マレーシア、カンボジア
4年	1名	モンゴル
5年	1名	マレーシア



足踏みミシンボランティア活動



平成30年度 フィリピン共和国 足踏みミシンボランティア事業
期間：平成31年3月20(水)～3月25日(月)

本活動の契機は、平成15年に大分県青少年団体連絡協議会からの「貧困層の子供達に縫製技術を身に付けさせる自立支援活動」への参加依頼でした。当時から週一回の放課後に本校の技術部職員と足踏みミシンボランティア学生が一緒になって、大分県内外の家庭等から寄贈された古く壊れた足踏みミシンを分解・修理し、平成15年から現在に至るまでの15年間に修理した足踏みミシン約300台を東南アジア諸国の貧困地域などへ贈呈してきました。



出発式の様子



毎週木曜日の放課後での活動の様子

近年では、大分県フィリピン友好協会との協働により、学生と教職員がフィリピン共和国へ赴き、贈呈先などで現地の故障したミシンの修理及び現地語に翻訳した修理マニュアルを用いて、現地の人達が独力で贈呈した足踏みミシンを修理できる技術指導も行ってきました。

この活動は、本校の教育理念である「人間性に溢れ国際感覚を備えた技術者の養成」に基づいた国際的ボランティア活動であり、学内外の団体等において高い評価を得ており、これまでメディアの報道により大分県内外における認知度が向上し、全国から多くの足踏みミシンの提供を受け、現在もこの活動を続けています。